

**問 20：あなたは、体育指導委員のことを聞いたことがありますか。**

- ・「聞いたことがある」の割合は57.7パーセントと高くなっています。
- ・年齢からみると50歳代の認知度が最も高く、20歳代の認知度が低くなっています。
- ・居住地の別からみると、東山・明祥中学区での認知度が高いことが伺えます。
- ・スポーツ・運動の好嫌度（問2）からみると、スポーツ・運動が好きな人ほど体育指導委員の認知度が高くなっています。

**表 2-26 体育指導委員の認知度（単数回答 有効回答数：608）**

No.		件数(H21)	(全体)%	(除無)%
1	聞いたことがある	351	56.5%	57.7%
2	聞いたことがない	257	41.4%	42.3%
	無回答	13	2.1%	—
サンプル数(%ベース)		621		608

**図2-39 体育指導委員の認知度と年齢のクロス集計（有効回答数：606）**

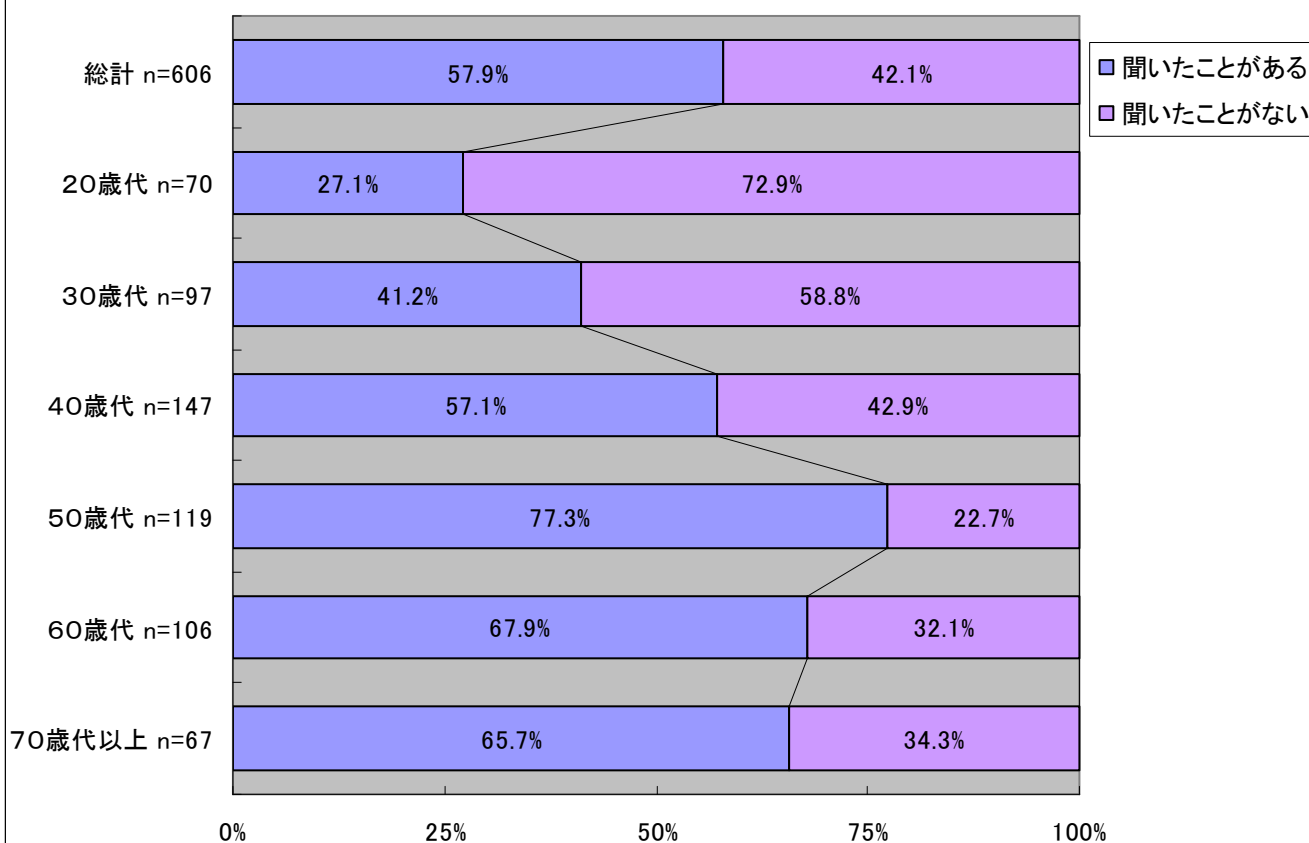


図2-40 体育指導委員の認知度と居住地のクロス集計(有効回答数:608)

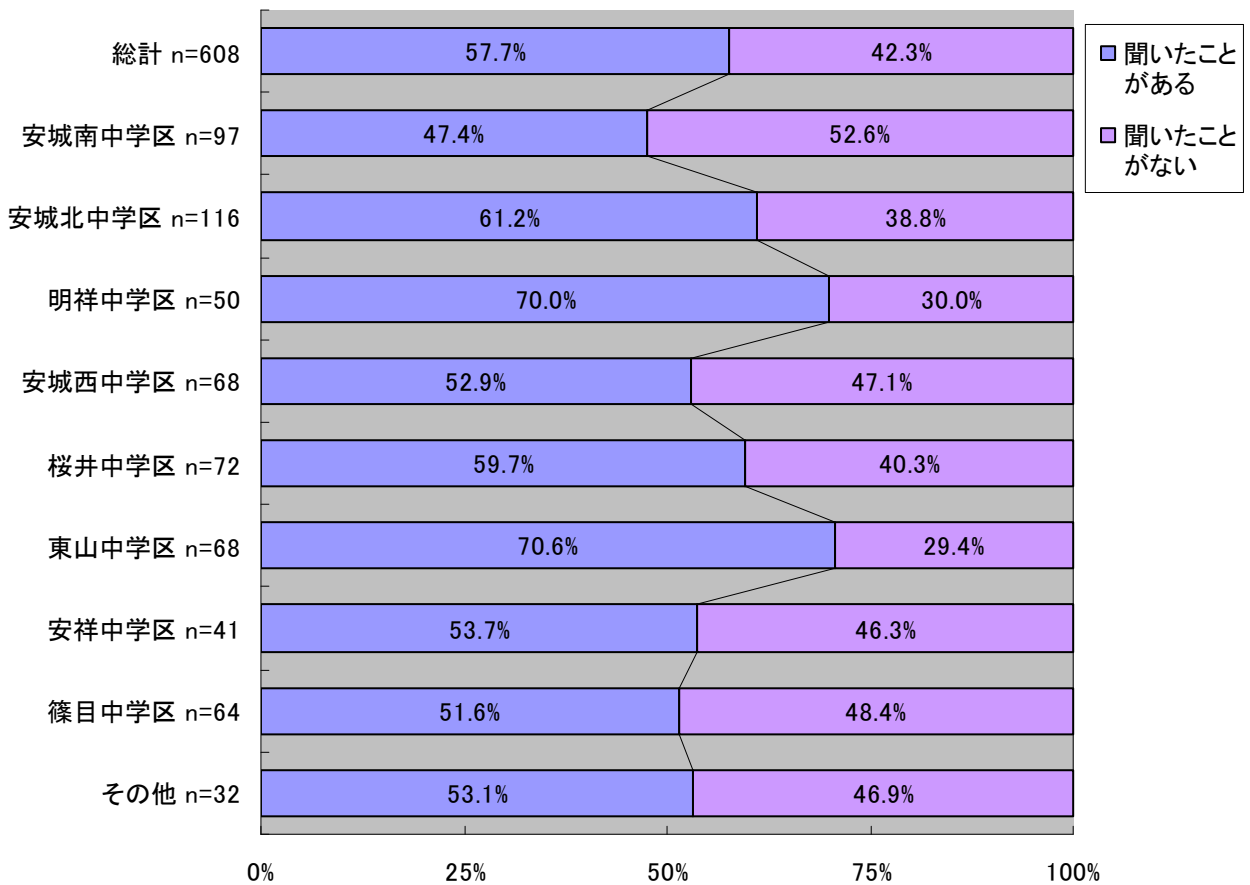
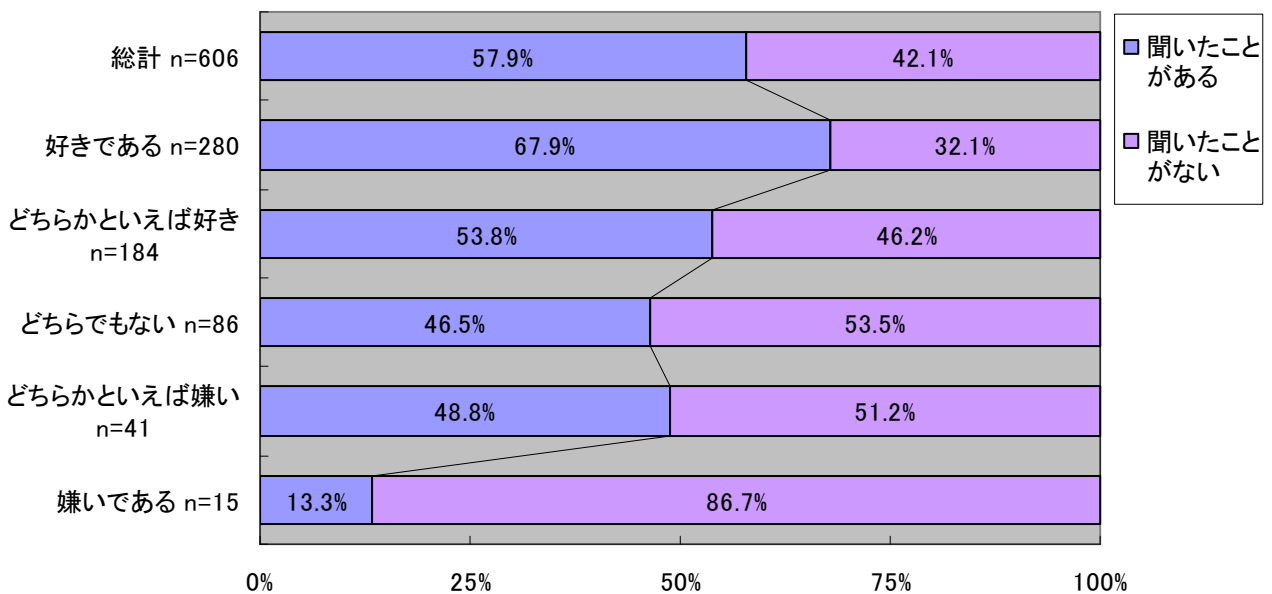


図2-41 体育指導委員の認知度とスポーツに対する好嫌度のクロス集計(有効回答数:606)



<考察>

年齢の別、居住地の別によって差がみられるものの、全体の認知度は過半数を越えています。このことは、地域性や体育指導委員の行う事業の内容、対象年齢等により、認知度に差があるものと考えられます。

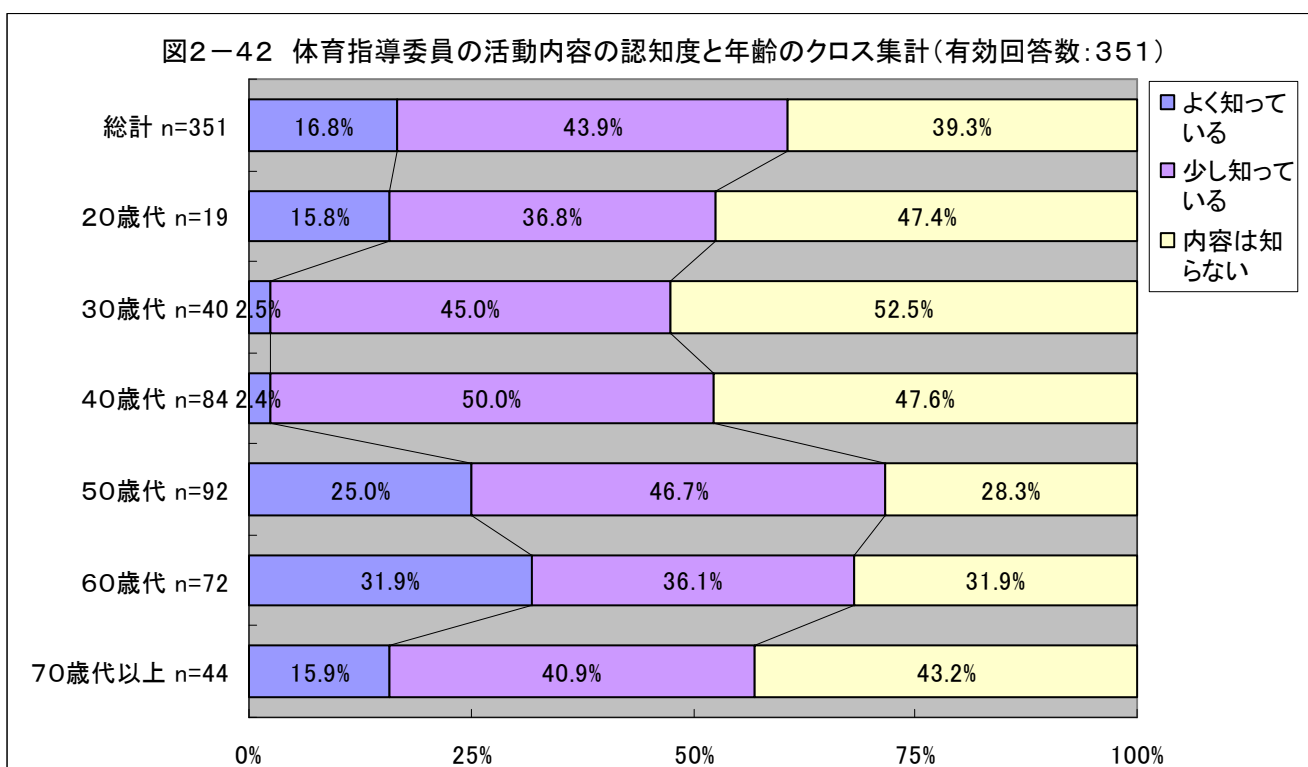
体育指導委員の認知度向上には、体育指導委員が地元で行っている市民地域スポーツ交流会などを初めとする体育指導委員主催事業の周知を進める必要があると思われます。また東山・明祥中学区については、明確な答えは分からないものの、体育指導委員の地域での積極的な活動により認知度が高くなっていると推測されます。

問 2 1 : 問 2 0 で「聞いたことがある」を選んだ方にお尋ねします。体育指導委員がどんな活動をしているか知っていますか。

- ・体育指導委員を「聞いたことがある」と回答した人の 60.7 パーセントが活動内容についても「よく知っている」「少し知っている」と回答しています。
- ・年齢から見ると 50～60 歳代の認知度が高いと思われます。

表 2 - 2 7 体育指導委員の活動内容の認知度 (単数回答 有効回答数 : 351)

No.		件数(H21)	(全体)%
1	よく知っている	59	16.8%
2	少し知っている	154	43.9%
3	内容は知らない	138	39.3%
サンプル数(%ベース)		351	100%



**<考察>**

体育指導委員という名称の認知度に比べ、内容まで知っている人の割合は比較的少ないことが読み取れますが、50～60歳代の人では内容についても比較的、認知度が高いことが分かります。

全回答者(621名)のうち、体育指導委員の活動内容を「よく知っている」「少し知っている」と回答した人の割合は34.3パーセントとなっています。

問 2 2 : あなたは、体育指導委員主催のスポーツ教室が地域で開催されていることを知っていますか。

- ・全体では59.5パーセントの人が「知らない」と回答しています。
- ・居住地の別からみると、東山・明祥中学区での認知度が高くなっています。
- ・年齢からみると、若い年代ほど認知度が低くなっています。

表 2 - 2 8 体育指導委員主催のスポーツ教室の認知度 (単数回答 有効回答数 : 607)

No.		件数(H21)	(全体)%	(除無)%
1	よく知っている	74	12.0%	12.3%
2	少し知っている	170	27.4%	28.2%
3	知らない	358	57.6%	59.5%
	無回答	19	3.0%	—
サンプル数(%ベース)		621	100.0%	602

図2-43 体育指導委員主催のスポーツ教室への認知度と居住地のクロス集計 (有効回答数:602)

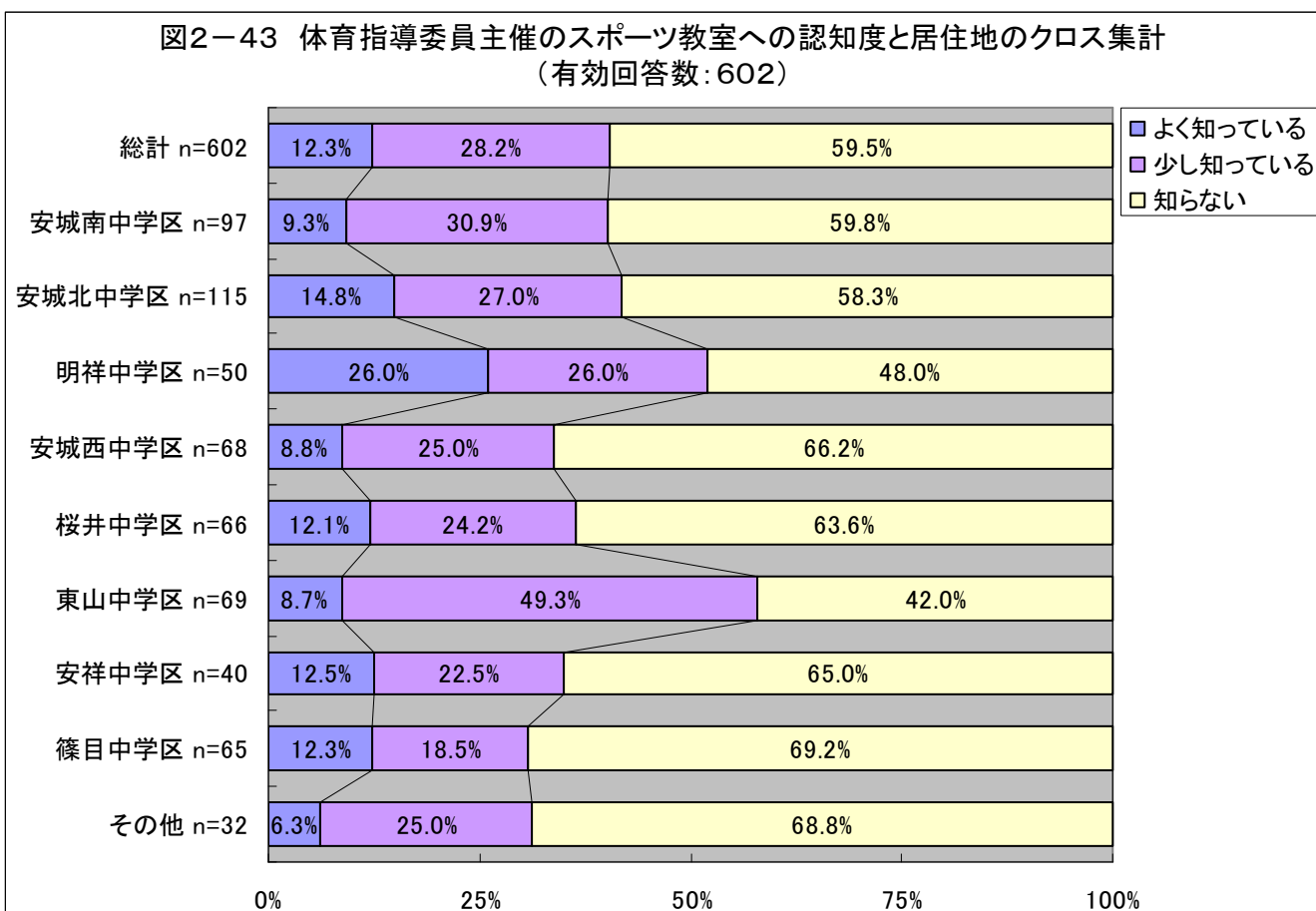
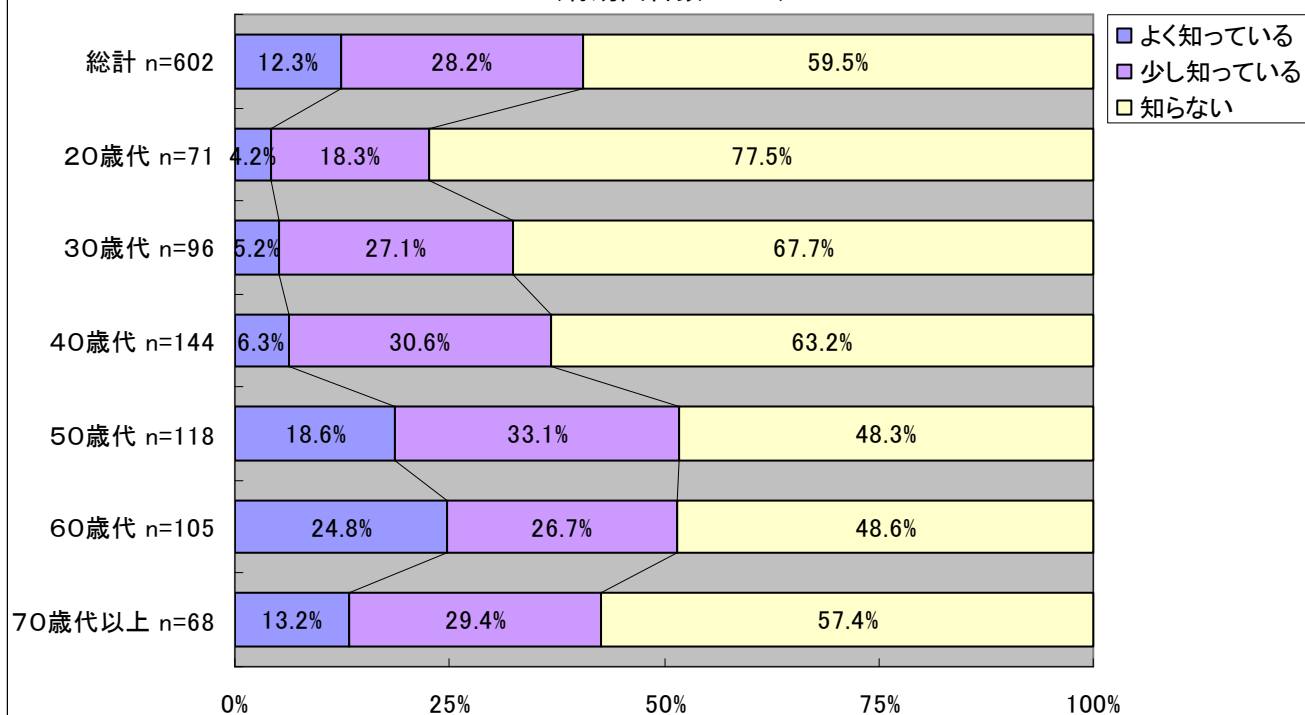


図2-44 体育指導委員主催のスポーツ教室への認知度と年齢のクロス集計  
(有効回答数:602)



<考察>

居住地の別や年齢の別で差がみられます。このことは地域性、体育指導委員の行うスポーツ行事の内容、広報の仕方によって認知度に差があると考えられます。

東山中学区については、地元で総合型地域スポーツクラブ「ANJOほく部みんスポクラブ」があること、また明祥中学区については、明確な答えは分からないものの、体育指導委員が地域で子ども会を始めとする多くの団体と連携した会議や行事を積極的に行っていることから、認知度が高くなっていると推測されます。

年齢からみると20～40歳代の認知度が低くなっていますが、スポーツ教室の内容は必ずしも高齢者向けばかりでないことから、体育指導委員の行うスポーツ教室の認知度向上のためには、事業の周知が一層必要と思われます。

**問 2 3 : あなたは、スポーツ行事など身近で発生する怪我や熱中症などの予防・対処法の指導を受けてみたいと思いますか。**

- ・ 50.7パーセントの人が「受けてみたい」と回答しています。
- ・ 年齢や性別による差はみられません。
- ・ スポーツ・運動をする頻度からみると、頻繁にスポーツ・運動を行う人ほど関心が高いことが伺えます。

**表 2-29 予防・対処法指導への意向（単数回答 有効回答数：586）**

No.		件数(H21)	(全体)%	(除無)%
1	受けてみたい	297	47.8%	50.7%
2	受けてみたいとは思わない	286	46.1%	48.8%
	※その他(受講済みなど)	3	0.5%	0.5%
	無回答	35	5.6%	—
サンプル数(%ベース)		621	100.0%	586

**図2-45 予防・対処法指導への意向と年齢のクロス集計(有効回答数:586)**

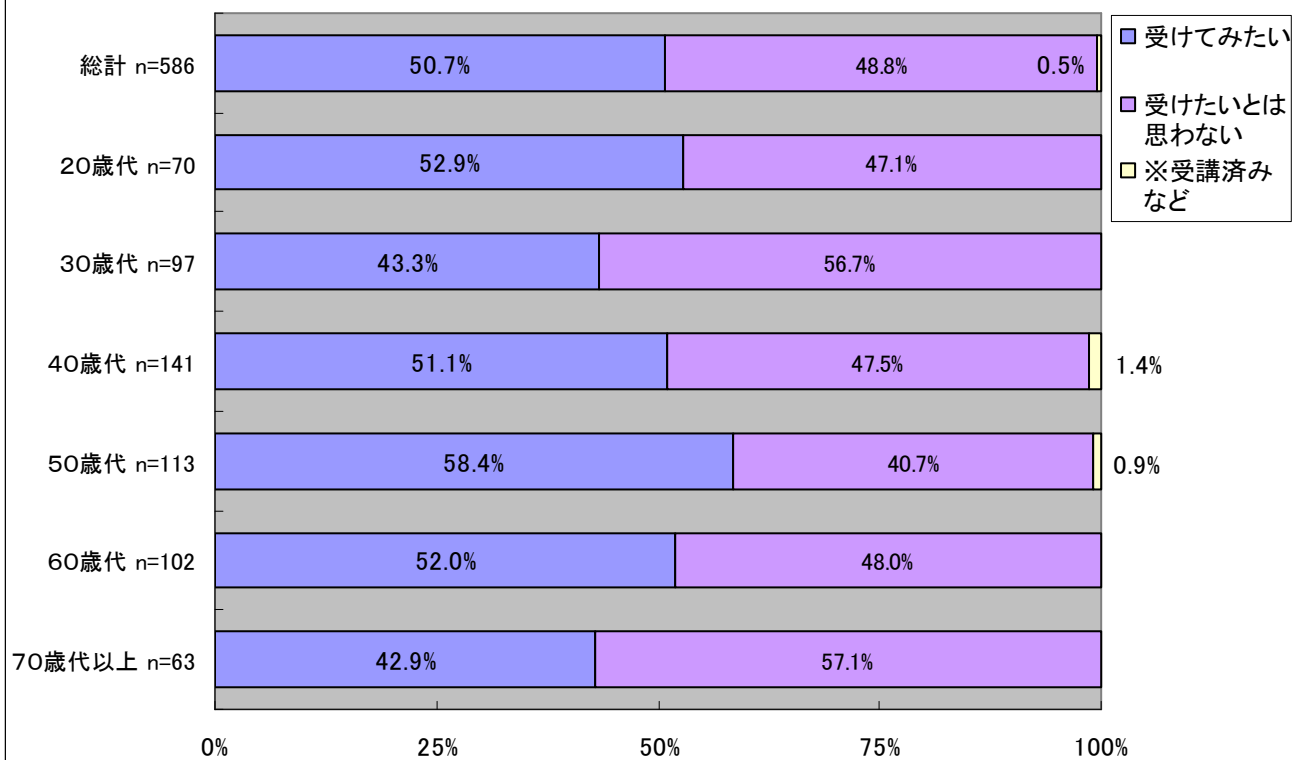


図2-46 予防・対処法指導への意向と性別のクロス集計(有効回答数:582)

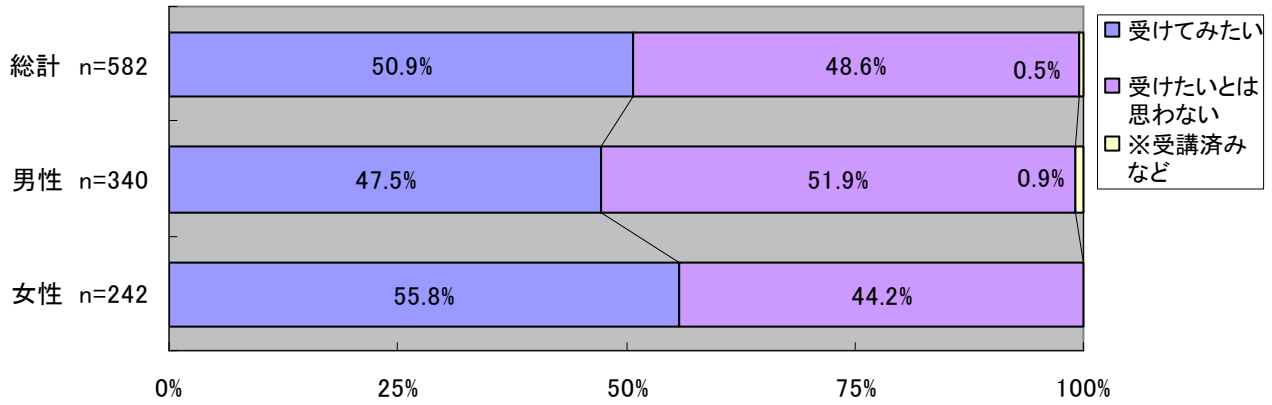
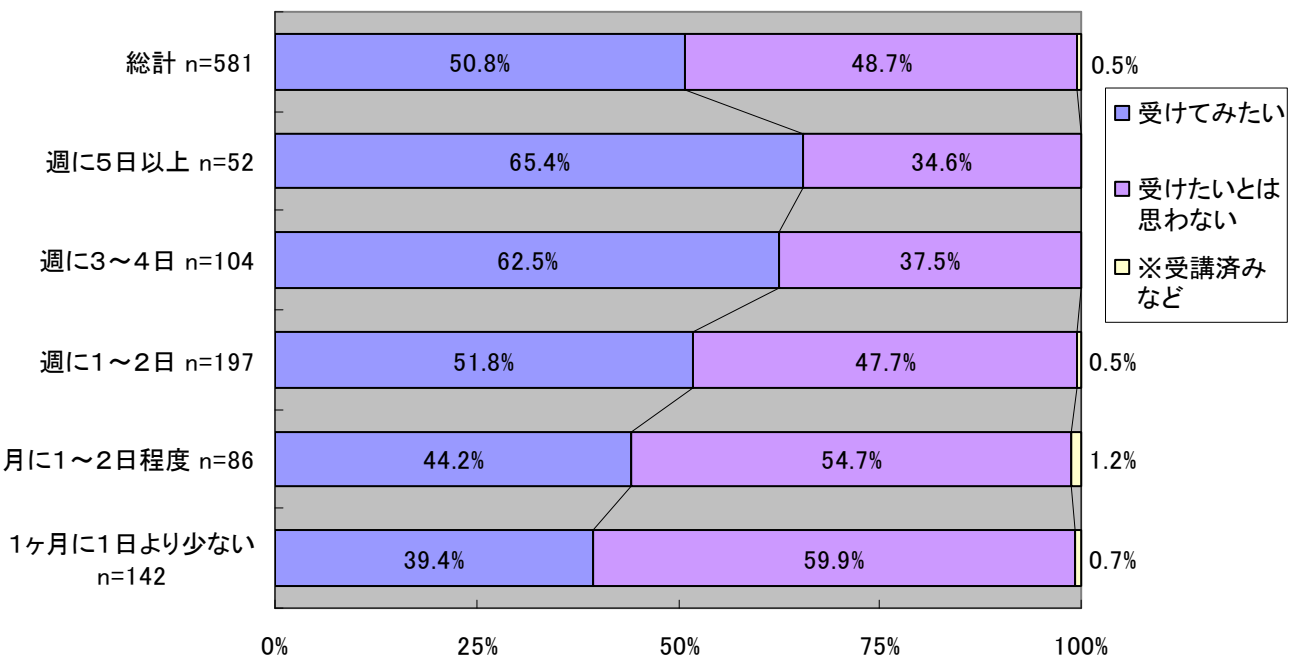


図2-47 予防・対処法指導への意向とスポーツ・運動をする頻度のクロス集計(有効回答数:581)



<考察>

年齢別、性別による差があまりないことに比べて、スポーツ・運動で身体を動かす頻度が高い人ほど予防・対処法の習得への意欲があると考えられます。

また、スポーツ・運動をする頻度の低い人でも約4割が指導を受けてみたいと回答しており、予防・対処法への関心は高いものと考えられます。

**問 2 4 : あなたは、カローリング、ミニテニスなど「ニュースポーツ」を聞いたこと、または体験したことがありますか。**

- ・ニュースポーツについて、「聞いたことがある」は27.3パーセント、「体験したことがある」は13.5パーセントと低い認知度となっています。
- ・年齢の別からみると、若い年代ほど認知度が低くなっています。
- ・性別からみると、女性の認知度のほうが若干高くなっています。
- ・居住地の別からみると、明祥・東山中学区の認知度が高くなっています。

**表 2 - 3 0 ニュースポーツの認知度 (単数回答 有効回答数 : 600)**

No.		件数(H21)	(全体)%	(除無)%
1	聞いたことがある	164	26.4%	27.3%
2	体験したことがある	81	13.0%	13.5%
3	どちらもない	355	57.2%	59.2%
	無回答	21	3.4%	—
サンプル数(%ベース)		621	100.0%	600

**図 2 - 4 8 ニュースポーツの認知度と年齢のクロス集計 (有効回答数 : 600)**

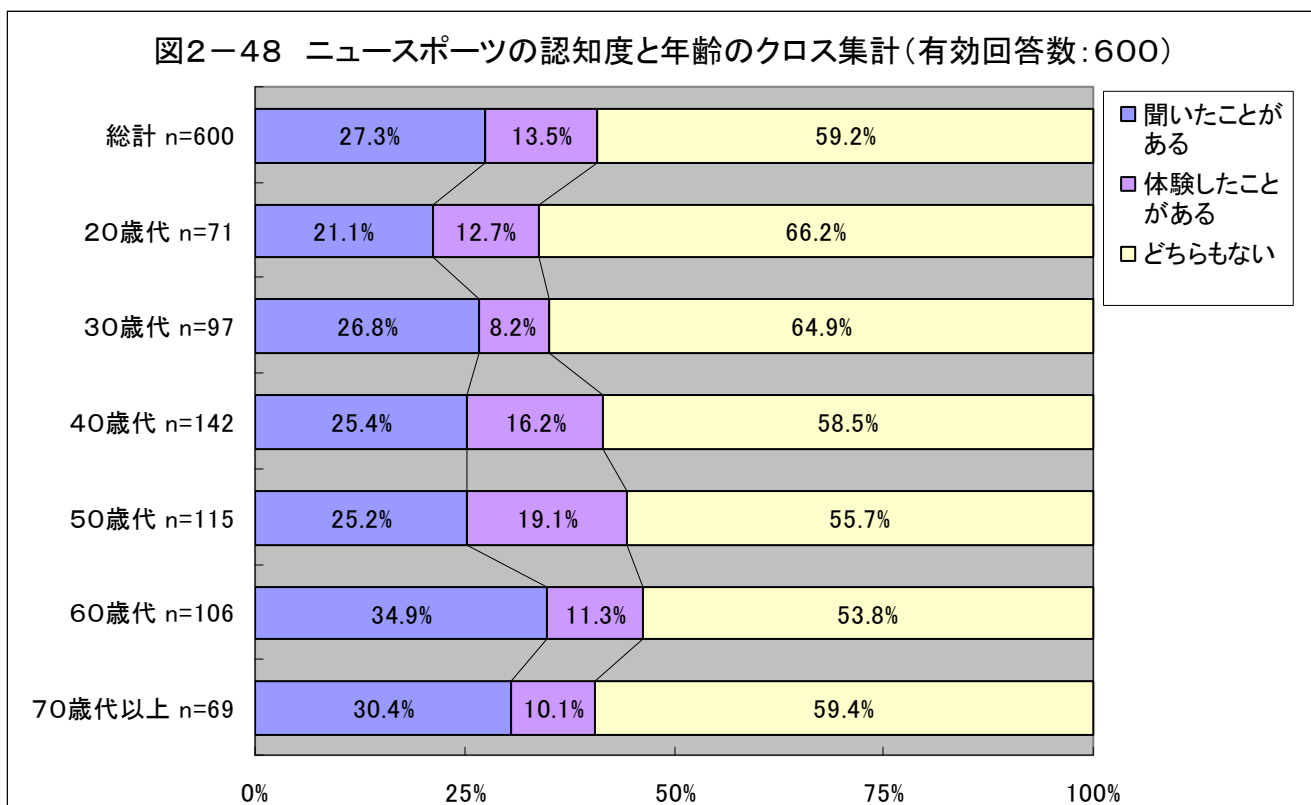




図2-49 ニュースポーツの認知度と性別のクロス集計(有効回答数:596)

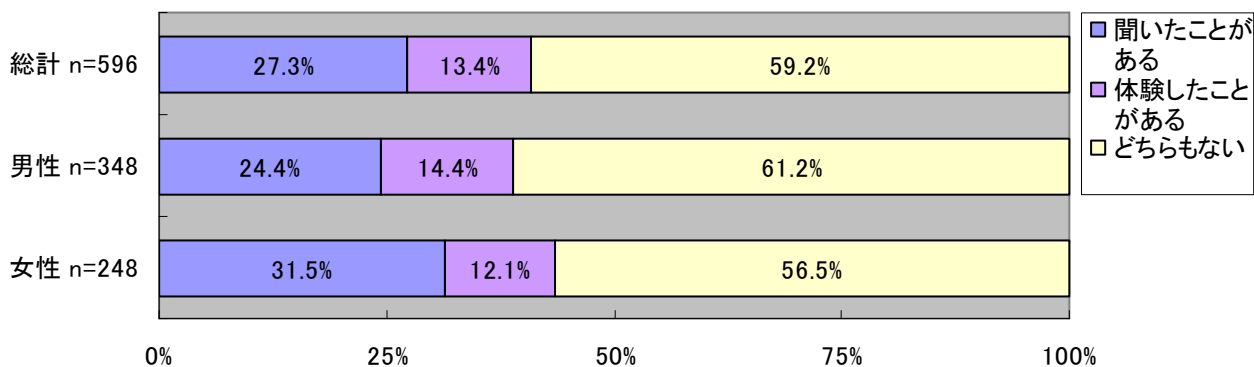
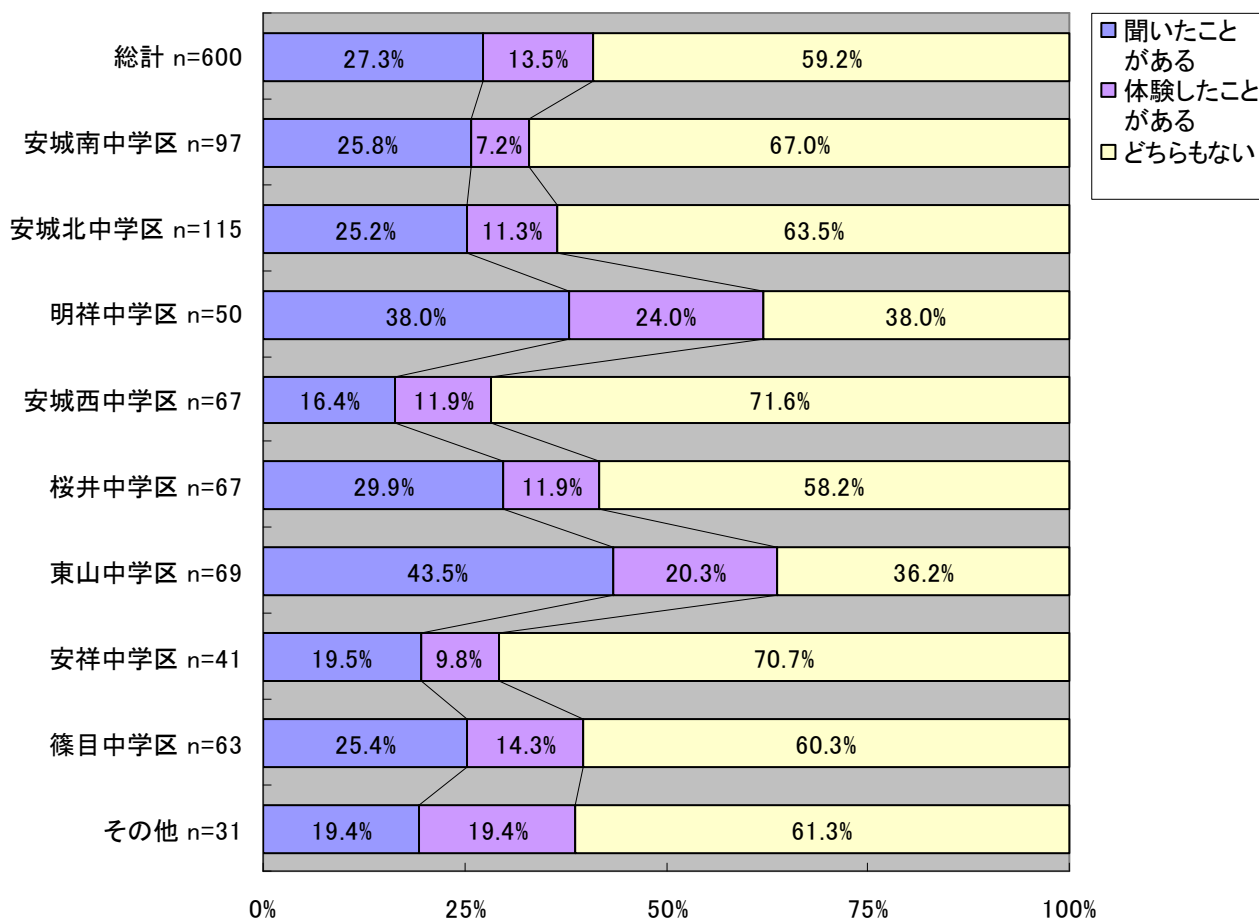


図2-50 ニュースポーツの認知度と居住地のクロス集計(有効回答数:600)



<考察>

年齢や性別によるニュースポーツへの認知度の大きな差はみられませんが、居住地の別によって大きく差があります。これは体育指導委員の活動や、東山中学区の総合型地域スポーツクラブ「ANJOほく部みんスポクラブ」のような団体の活動が影響していると思われます。なお、明祥中学区については、明確な答えは分からないものの、体育指導委員が地域で子ども会を始めとする多くの団体と連携した会議や行事を積極的に行っていることから、行事で行われることの多いニュースポーツの認知度が高くなっていると推測されます。

しかし、全体での認知度はまだ低いため、各町内会へのニュースポーツパンフレットの配布、体育指導委員広報誌及び生涯学習情報誌「あんでな」による情報提供や、まちかど講座(出前講座)などを通じて、どんな年代でも手軽に行えるスポーツ・運動の一つとして、市民への周知が必要と思われます。

**問 25 : あなたは、小中学校の施設が一般に開放されていることを知っていますか。**

- ・全体では、「知っている」人の割合が63.4パーセントとなっています。
- ・年齢からみると、70歳代以上での認知度が低くなっています。
- ・居住地の別からみると、総合型地域スポーツクラブや体育指導委員の認知度と同じように地区による差がみられます。
- ・スポーツ・運動の好嫌度のクロス集計からみると、スポーツ・運動で体を動かすことが好きな人ほど認知度が高い傾向がみられます。

**表 2-31 学校施設開放の認知度（単数回答 有効回答数：598）**

No.		件数(H21)	(全体)%	(除無)%
1	知っている	379	61.0%	63.4%
2	知らない	219	35.3%	36.6%
	無回答	23	3.7%	—
サンプル数(%ベース)		621	100%	598

**図2-51 学校施設開放の認知度と年齢のクロス集計（有効回答数：598）**

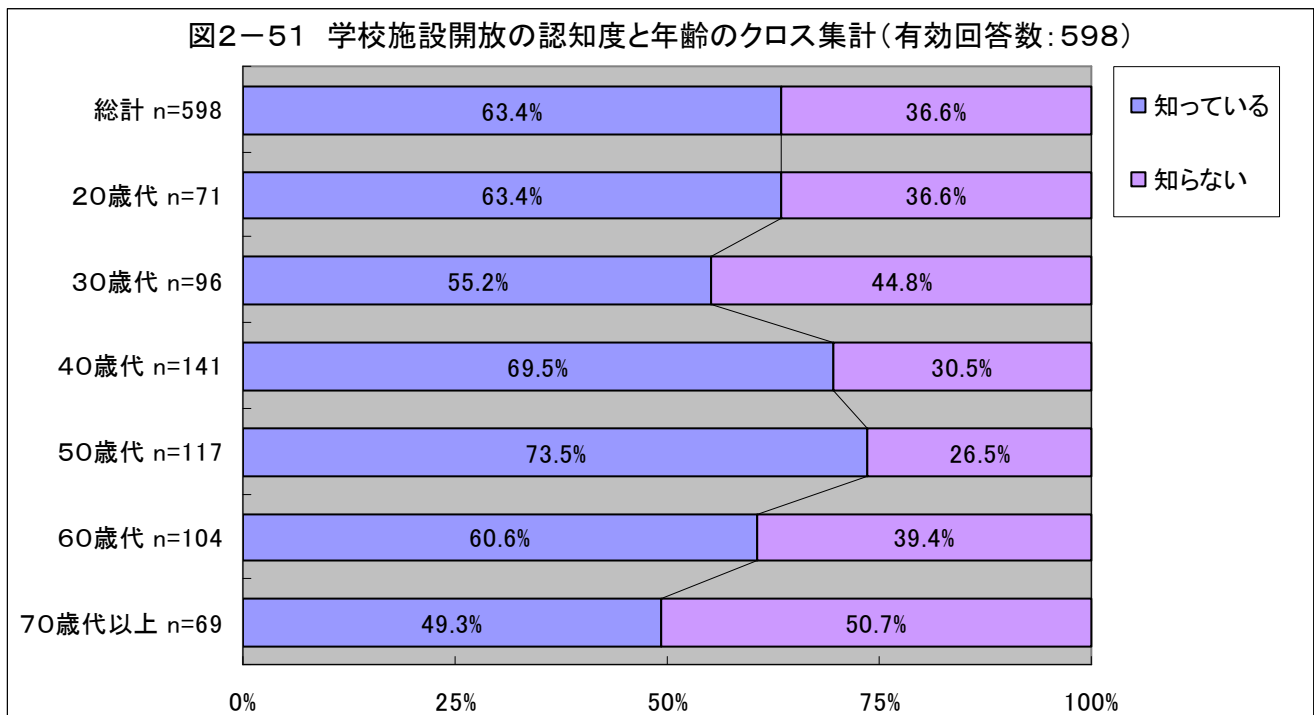


図2-52 学校施設開放の認知度と居住地のクロス集計(有効回答数:598)

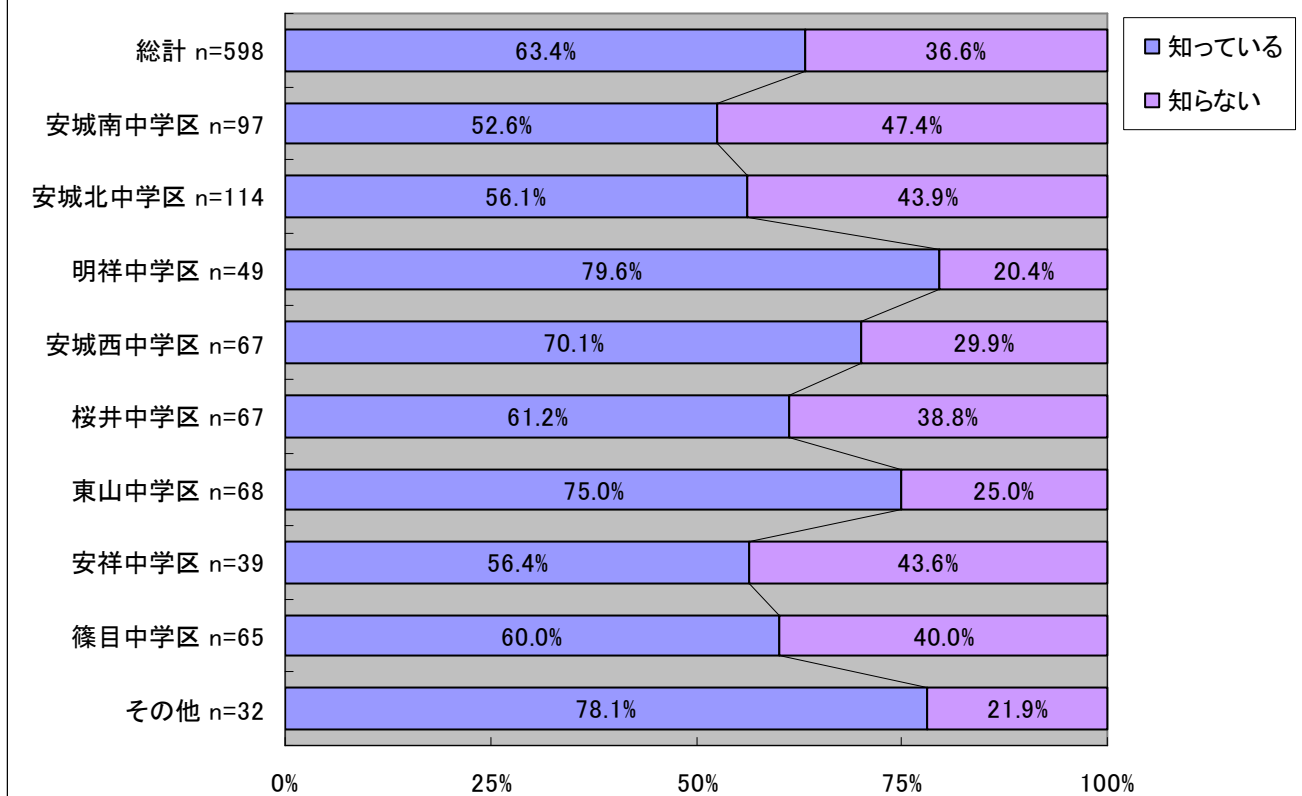
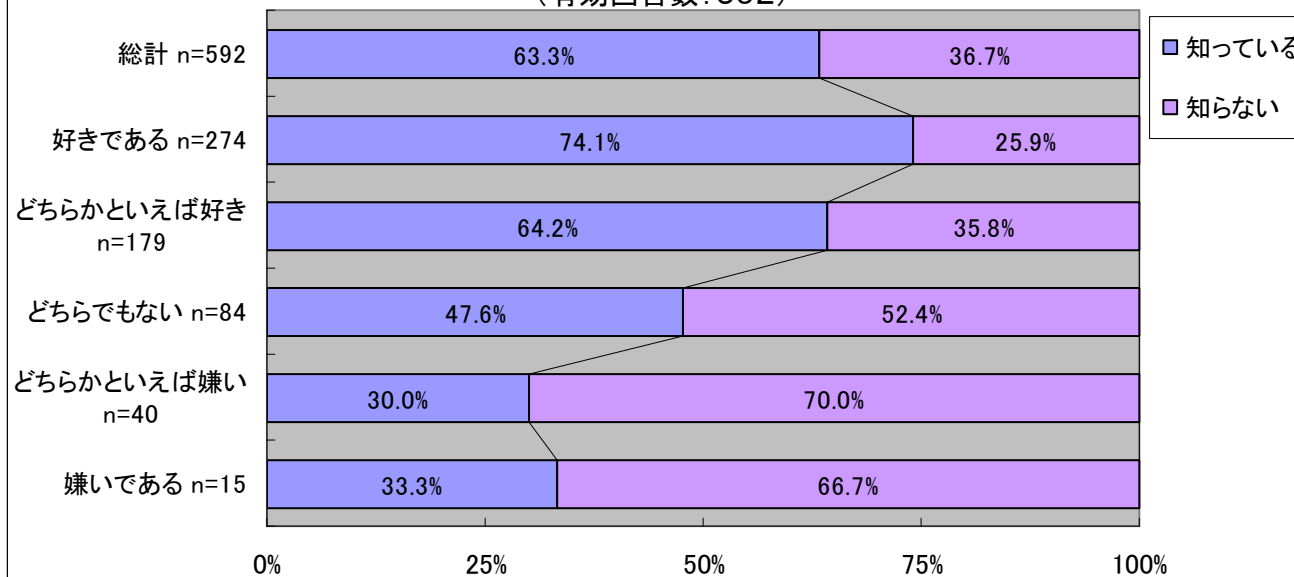


図2-53 学校施設開放の認知度とスポーツ・運動の好嫌度のクロス集計(有効回答数:592)



<考察>

スポーツ・運動で体を動かすのが「好きである」と回答した人の認知度が高いのは、小中学校の施設がこれらの人たちの実際のスポーツ・運動の活動の場となっているのではないかと推察されます。

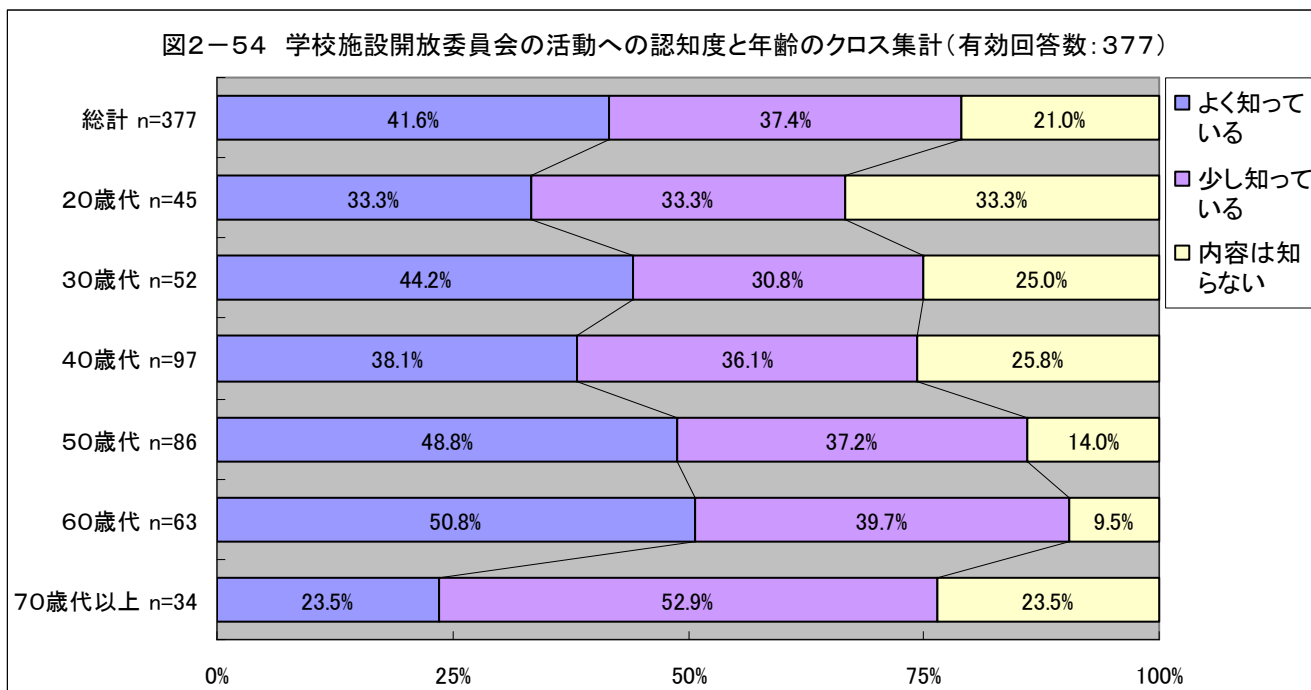
現在スポーツ・運動を行っている場所と年齢のクロス集計(図2-10)からみると、学校施設の開放を必要としている年代で認知度が高く、70歳以上の学校施設の開放をあまり必要としていない年代では、認知度が低い傾向がみられます。

問26：問25で、「知っている」を選んだ方にお尋ねします。あなたは、学校施設開放運営委員会によって、小中学校の施設が登録団体に一般開放されていることを知っていますか。

- ・全体では、79.0パーセントの人が「よく知っている」「少し知っている」と回答しています。
- ・年齢からみると、若い人の認知度が低くなっています。

表2-32 学校施設開放運営委員会の活動への認知度（単数回答 有効回答数377）

No.		件数(H21)	(全体)%
1	よく知っている	157	41.6%
2	少し知っている	141	37.4%
3	知らない	79	21.0%
サンプル数(%ベース)		377	100.0%



<考察>

学校施設の開放は、市内の小中学校の全てで行っていますが、学校施設開放運営委員会の活動の認知度は、全回答者（621人）の47.9パーセントと低くなっています。

そのため、学校の施設を利用できる団体が小学校と中学校では異なる点がありますが、市広報誌など様々な媒体を活用しながら周知をしていく必要があります。

**問 27：あなたは、マイスポーツ運動という言葉を知っていますか。**

- ・全体では、77.3パーセントの人が「聞いたことがない」と回答しており、認知度の低さが伺えます。
- ・年齢からみると、50～60歳代での認知度は比較的高くなっています。

**表 2-33 マイスports運動の認知度（単数回答 有効回答数：600）**

No.		件数(H21)	(全体)%	(除無)%
1	聞いたことがある	136	21.9%	22.7%
2	聞いたことがない	464	74.7%	77.3%
	無回答	21	3.4%	—
サンプル数(%ベース)		621	100%	600

**図2-55 マイスports運動の認知度と年齢のクロス集計(有効回答数:600)**

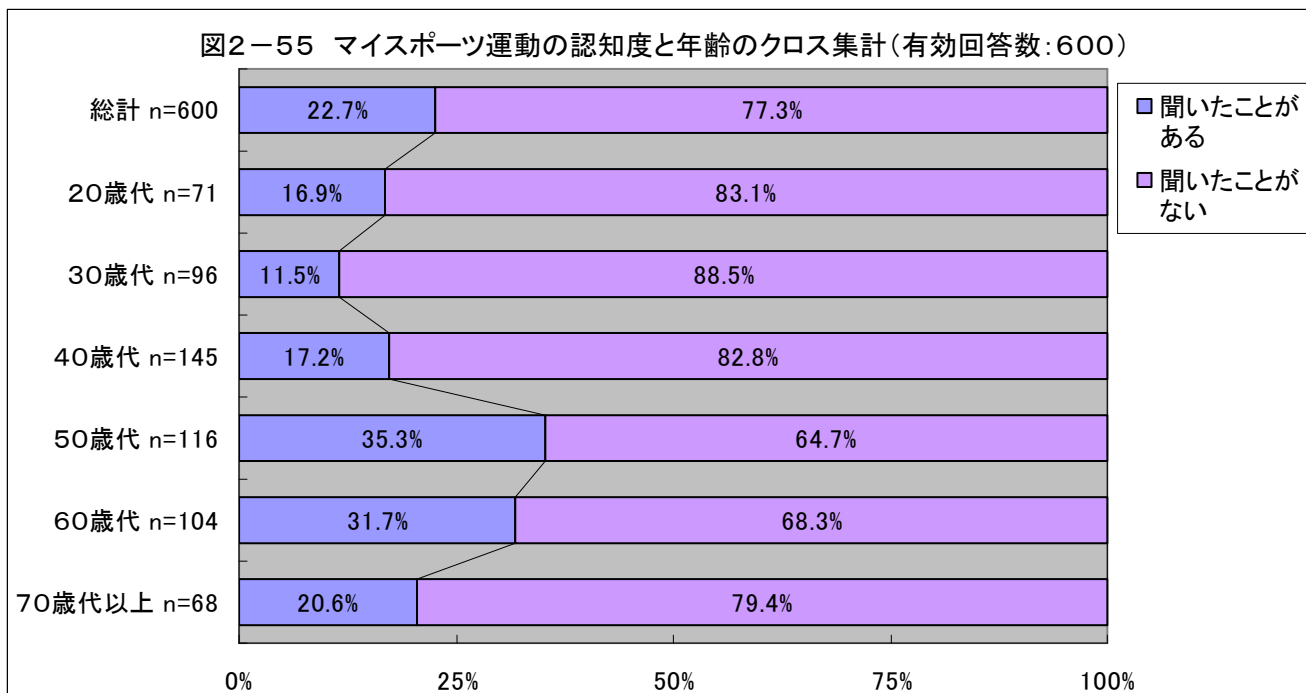
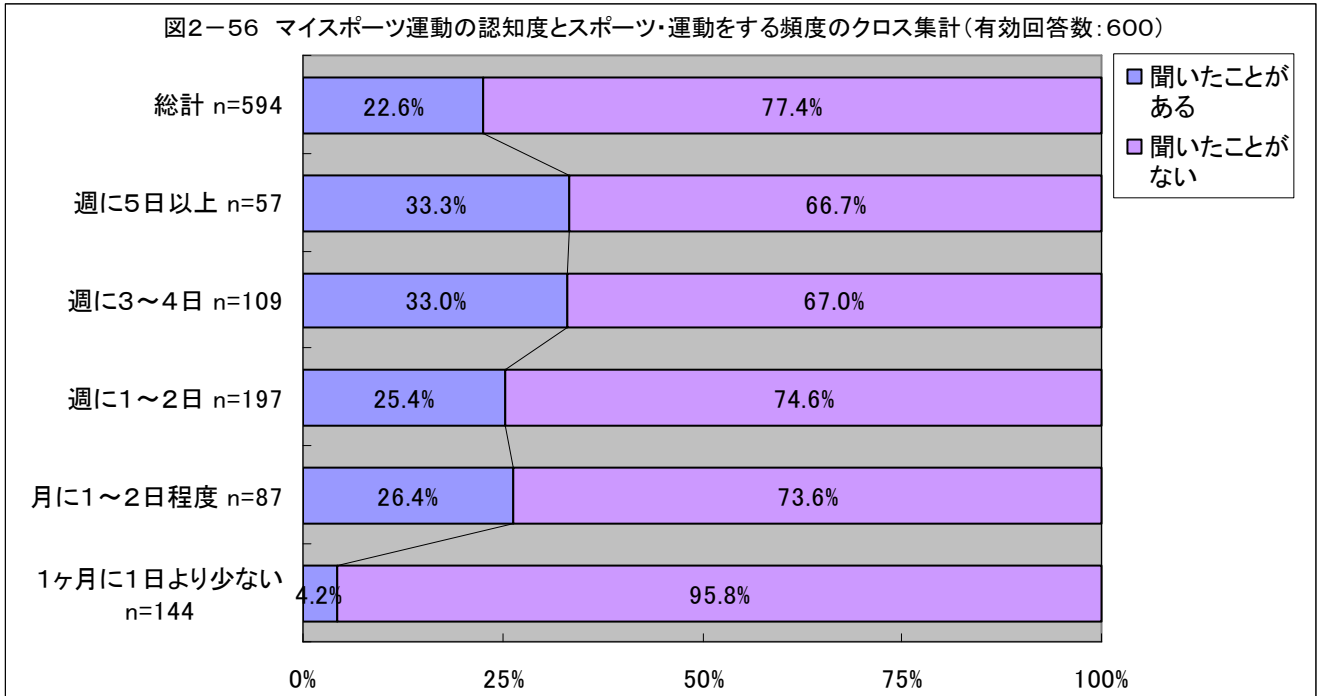


図2-56 マイスports運動の認知度とSports・運動をする頻度のクロス集計(有効回答数:600)



**<考察>**

Sports・運動で頻繁に体を動かしている人でも、「Mysports運動」を知っている割合は約3割と、頻度の高い人にも認知されておらず、全体的に認知度が低いのが現状です。そのため、今後は更にSports行事の開催時や市広報誌などの様々な媒体で、広く市民に周知していく必要があります。